

令和 7 年度行政評価《事業評価調書》

事業名 小樽港貿易振興協議会負担金		担当 産業港湾部港湾室	
事業概要		小樽港の利用を促進することにより、港湾産業の振興に寄与し、小樽経済の発展を図るため、官民一体となった積極的な事業展開を行う。	
事業費(A)		概算人工	
人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算	1,500 千円	0.2 人	1,148 千円 2,648 千円
R7予算	1,500 千円	0.2 人	1,148 千円 2,648 千円
目標		官民連携で小樽港の利用を促進し、港湾産業と地域経済の発展を図る。	
実績・効果		小樽港の利用促進に向け、本協議会による官民一体の連携体制を確立している。物流環境が変化する中でも、外貿・内貿の貨物取扱量は堅調に推移し、安定した規模を維持している。この物流基盤と協力体制を活かし、港湾産業の振興と小樽経済の持続的発展を図る事業を展開していく。	
点検・評価	点検項目	評価	評価の理由等
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い	小樽港の利用促進には官民一体の取り組みが不可欠であり、事業廃止は競争力低下を招くため継続の必要性は高い。
	妥当性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い	市単独ではなく協議会への負担金で官民協働体制を維持する手法は、民間活力を引き出す上で極めて妥当である。
	有効性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い	官民連携が機能し貨物量が堅調に推移する中、安定した物流基盤の維持に直結しており地域経済発展への貢献度は高い。
	効率性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い	限られた予算で民間の協力を引き出し、港湾全体の物流基盤を維持する効果がある。
評価の結果を踏まえた今後の方向性			継続
【今後の方向性の説明】 小樽港の利用促進は小樽経済の発展を図るため不可欠であり、官民一体となった取り組みが会員企業をはじめとする民間企業から求められていることから、引き続き事業を継続していく。 また、協議会事業として毎年実施している札幌地区セミナーを当面は隔年実施とし、関西地区セミナーを実施する。			

事業名 小樽港物流促進プロジェクト事業費		担当 産業港湾部港湾室	
事業概要		小樽港貿易振興協議会に補助金を交付し、協議会事業として小樽港の物流活性化に取り組む。	
事業費(A)		概算人工	
人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算	1,431 千円	0.2 人	1,148 千円 2,579 千円
R7予算	3,940 千円	0.2 人	1,148 千円 5,088 千円
目標		官民一体で小樽港のポートセールスを強化し、港湾産業と小樽経済の発展を図る。	
実績・効果		小樽港の物流促進のため、中国コンテナ航路を活用したポートセールスを実施するほか、フェリー航路利用促進事業として、割安な旅行商品の企画販売や小樽周遊ツアー商品の造成などを行えている。	
点検・評価	点検項目	評価	評価の理由等
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い	貨物集荷や航路維持に不可欠かつ、市単独では実施が難しい事業を行っており、事業廃止は貨物流出を招くため必要性は高い。
	妥当性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い	市が事務局を担う官民組織を対象としており、小樽港の貿易維持・発展のための事業を、官民連携で実施しており妥当性は高い。
	有効性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い	関係事業者の評価が高く、継続した取り組みを求められている。実施結果を踏まえて、複数年度での事業に発展するなど有効性は高い。
	効率性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い	限られた予算で民間の協力を引き出し、港湾全体の物流基盤を維持する効果がある。
評価の結果を踏まえた今後の方向性			拡大
【今後の方向性の説明】 これまでの活動で構築した官民連携の基盤を活かし、フェリー利用促進事業や貨物増加に向けた取り組みを継続して推進する。国内外の動向に柔軟に対応しながら、実効性のある事業を展開し、港湾産業の振興と小樽経済の活性化を図っていく。			

令和 7 年度行政評価 《事業評価調書》

事業名 環日本海クルーズ推進事業費				担当 産業港湾部港湾室				
事業概要		日本海側クルーズの寄港促進とブランド化を図るため、小樽港、秋田県 3 港、伏木富山港、京都舞鶴港、境港の 5 地域が連携、共同でクルーズ船の誘致活動を行う。						
	事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算	1,109	千円	0.2	人	1,148	千円	2,257	千円
R7予算	1,348	千円	0.2	人	1,148	千円	2,496	千円
目標		5 地域が連携、共同でクルーズ船の誘致活動を行い寄港回数を増やす。						
実績・効果		協議会の主要な事業「外国船社幹部招請事業」は、1 回数百万円かかるなど費用の面から、単独での実施は不可能であるが、5 地域で連携することで実施することができている。また、5 港連携により外国船社へ航路として P R することで、誘致効果を高めている。						
点検・評価	点検項目	評価			評価の理由等			
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			・市長公約に該当する事業である。			
	妥当性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			・現状唯一の連携招請を行う組織である。			
	有効性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			コロナ禍以降、各港担当者異動などにより、ノウハウが失われ活動が停滞していたが、費用や P R 効果の面では有効性が認められる。			
	効率性	☐ 高い ☐ どちらかという和高い ☒ どちらかという和低い ☐ 低い			複数地域参画のため、ターゲットとなる船社の選定など、要望とりまとめに時間を要する。			
評価の結果を踏まえた今後の方向性					継続			
【今後の方向性の説明】								
5 地域連携が、それぞれの魅力を発信することで、日本海側クルーズのPRを図りつつ、小樽独自の魅力を訴求することで、クルーズ船の誘致に取り組む。								

事業名 小樽港クルーズ推進事業費			担当 産業港湾部港湾室							
事業概要		官民協働の「小樽港クルーズ推進協議会」により、クルーズ船の誘致活動や受入態勢の強化に取組み、本市と周辺地域の経済振興・発展を図る。								
		事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)		
R6決算		13,527	千円	0.4	人	2,296	千円	15,823	千円	
R7予算		20,000	千円	0.4	人	2,296	千円	22,296	千円	
目標		クルーズ船の誘致活動や受入態勢の強化に取組み、本市と周辺地域の経済振興・発展を図る。								
実績・効果		都内におけるクルーズプロモーションの実施や受入体制の強化により、寄港数がR5年22回からR6年32回と順調に増加している。また、オーバーナイトによる寄港もR5年2回からR6年4回と増えており、滞在時間が長くなることにより市内観光消費の増大を見込める。								
点検・評価	点検項目	評価				評価の理由等				
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				・市長公約に該当する事業である。 ・受入体制強化により寄港時の船側の満足度が向上し、継続的な寄港に繋がっている。				
	妥当性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				・寄港時における各団体の役割分担などを明確化し、持続的な受入体制の構築に繋がっている。				
	有効性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				・受入体制や近隣市町村を含めた観光情報の発信により船社から評価を得ている。				
	効率性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				・民間団体と連携することで、受入体制を底上げし、船社からの評価を効率的に高めている。				
評価の結果を踏まえた今後の方向性						継続				
【今後の方向性の説明】 民間団体と連携し、寄港地観光の魅力発信や受入体制の強化を図ることで、寄港数の増加や経済効果増大に繋げる。										

令和7年度行政評価《事業評価調書》

事業名		基部緑地整備事業費		担当		産業港湾部港湾室			
事業概要		第3号ふ頭及び周辺再開発計画に基づき、市民や観光客が集うことができる空間として、第3号ふ頭基部を緑地として整備する。							
		事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算		22,126	千円	0.5	人	2,870	千円	24,996	千円
R7予算		461,400	千円	0.5	人	2,870	千円	464,270	千円
目標		第3号ふ頭および周辺再開発計画に基づき、港湾室庁舎の解体や、トイレの解体など基部緑地を整備し、賑わい空間の創出を図る。							
実績・効果		第3号ふ頭基部の賑わいは周辺地域の経済的価値の上昇につながり、民間による観光開発事業の促進及び地域経済の活性化が期待できる。							
点検・評価	点検項目	評価				評価の理由等			
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い				市街地へのアクセス地点である第3号ふ頭基部の賑わいや魅力づくりは市長公約にも掲げられており、継続の必要性は高い。			
	妥当性	☒ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い				護岸改良や緑地整備等を行う手法は事業目的に対して適切であり、執行体制も妥当である。			
	有効性	☒ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い				基部緑地の整備により、周辺地域の価値向上や民間による観光開発事業の促進、地域経済の活性化が期待できる。			
	効率性	☒ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い				国庫補助金を有効に活用して財源を確保しており、資源投入に対する事業効果の観点から費用対効果は適切である。			
評価の結果を踏まえた今後の方向性						継続			
【今後の方向性の説明】									
令和7年度の各種解体および緑地整備工事を着実に完遂し、第3号ふ頭基部の魅力を高める。整備された空間を契機とした民間投資や観光開発を誘導し、地域経済の活性化を継続的に図っていく。									

事業名		小型船だまり整備事業費		担当		産業港湾部港湾室			
事業概要		第3号ふ頭及び周辺再開発計画に基づき、小樽港で運航している観光船の乗り場を第3号ふ頭基部に集約するため、小型船だまり整備を実施する。							
		事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算		231,628	千円	0.5	人	2,870	千円	234,498	千円
R7予算		271,900	千円	0.5	人	2,870	千円	274,770	千円
目標		第3号ふ頭および周辺再開発計画に基づき小型船だまりを整備し、観光船の発着場集約による船舶交通の安全確保と賑わい創出を図る。							
実績・効果		本年度は物揚場整備（L=50.0m）や棧橋①整備などを計画通り実施し、基盤整備を着実に進めた。観光船の発着場を第3号ふ頭基部に集約するための環境を整えることで、港内における船舶交通の安全性が高まるとともに、将来的な賑わいの場としての役割を担う基盤が着実に構築されている。							
点検・評価	点検項目	評価			評価の理由等				
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い	・市長公約に該当する事業であり、分散する観光船の発着場を集約し船舶交通の安全を確保することは喫緊の課題であり、事業継続の必要性は極めて高い。						
	妥当性	☒ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い	再開発計画に基づき、物揚場や棧橋の整備を計画的かつ着実に進める実施手法は適切であり、執行体制も妥当である。						
	有効性	☒ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い	物揚場や棧橋の整備により発着場集約の基盤が整いつつあり、港内の船舶交通の安全性向上や賑わい創出に有効である。						
	効率性	☒ 高い ☐ どちらかという高い ☐ どちらかという低い ☐ 低い	国庫補助金を有効に活用して財源を確保しつつ、複数年計画に沿って効率的な事業執行を行っており費用対効果は高い。						
評価の結果を踏まえた今後の方向性					継続				
【今後の方向性の説明】 今後の棧橋整備を着実に実施し、本事業を完了させる。観光船の発着場集約による船舶交通の安全性向上と、港内の機能充実・賑わい創出に繋げていく。									

令和 7 年度行政評価 《事業評価調書》

事業名	観光船ターミナル整備事業費				担当	産業港湾部港湾室			
事業概要	第 3 号ふ頭及び周辺再開発計画に基づき、樽港で運航している観光船の発着場を集約する小型船だまりの整備に合わせ、観光船利用者の利便性向上を図るため、観光船ターミナルを整備するものである。								
	事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)		
R6決算	452,700	千円	0.5	人	2,870	千円	455,570	千円	
R7予算	392,900	千円	0.5	人	2,870	千円	395,770	千円	
目標	第3号ふ頭及び周辺再開発計画に基づき、観光船利用者の利便性向上を図るため、多目的ホール等を併設した観光船ターミナルを整備する。								
実績・効果	小樽港で運航している観光船を第3号ふ頭に集約する小型船だまり整備と合わせ、観光船利用者の利便性が図られるとともに、多目的ホールの導入による通年による賑わい創出により、地域経済の活性化が期待できる。								
点検・評価	点検項目	評価			評価の理由等				
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			観光船の集約化に伴う利用者利便性の向上や、多目的ホール等による通年での賑わい創出を図るため、事業継続の必要性は極めて高い。				
	妥当性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			34号上屋の解体跡地を活用し、待合所や多目的ホール、24時間利用可能なトイレ等を備えるターミナルを整備する手法は妥当である。				
	有効性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			ターミナル供用による観光客の利便性向上や地域経済への効果が期待される。				
	効率性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			複数年契約による計画的な工事および監理業務の発注を通じて効率的な事業執行を図っている。				
評価の結果を踏まえた今後の方向性					拡大				
【今後の方向性の説明】									
適切な品質管理を図りながら令和 7 年度内の供用開始に向けた準備を進め、供用開始後は、観光船の集約や多目的ホールの活用による通年の賑わい創出と地域経済の活性化を実現する。									

事業名				担当			
事業概要							
事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算	千円	人	千円	0	千円		
R7予算	千円	人	千円	0	千円		
目標							
実績・効果							
点検・評価	点検項目	評価		評価の理由等			
	必要性	☐ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い					
	妥当性	☐ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い					
	有効性	☐ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い					
	効率性	☐ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い					
評価の結果を踏まえた今後の方向性							
【今後の方向性の説明】							

令和7年度行政評価《事業評価調書》

事業名 維持管理計画更新事業費				担当 産業港湾部港湾室					
事業概要		港湾施設の維持管理については、今後、施設の老朽化に伴い維持・更新費等の増大が懸念されることから、補修等の費用の低減を図りつつ、長期に渡って施設を有効に活用するため、計画的な維持管理を行う。							
		事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算		8,085	千円	0.5	人	2,870	千円	10,955	千円
R7予算		9,000	千円	0.5	人	2,870	千円	11,870	千円
目標		港湾施設の計画的な維持管理により、施設の長寿命化と維持・更新費用の低減を図る。							
実績・効果		港湾施設の維持管理計画に基づく定期詳細点検を、計画に比べ遅れているものの着実に実施している。施設の劣化状況を早期に把握することで、大規模な破損に至る前の予防的な修繕が可能となっている。結果として、突発的で高額な修繕費用の発生を未然に防ぎ、施設の長寿命化と将来的な維持・更新費用の低減につながっている。							
点検・評価	点検項目	評価				評価の理由等			
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				施設の老朽化に伴う将来のコスト増大を防ぎ、長寿命化と費用低減を図る計画的な維持管理は不可欠であり、継続の必要性は極めて高い。			
	妥当性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				維持管理計画に基づく定期詳細点検を確実に実施し、予防的修繕につなげるアプローチは、適切な資産管理手法として妥当である。			
	有効性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				劣化状況を早期に把握して大規模破損を未然に防いでおり、施設の長寿命化や将来的な維持・更新費用の抑制に確実な効果を上げている。			
	効率性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				突発的で高額な修繕費用の発生を未然に防ぐことで中長期的なコスト縮減を実現しており、投資に対する費用対効果は高い。			
評価の結果を踏まえた今後の方向性						継続			
【今後の方向性の説明】									
平成26年度に策定した維持管理計画を実効性のあるものとして機能させるため、継続的な計画の更新を行っていく。今後は、計画に基づく定期詳細点検を着実に実施し、得られた最新の劣化データを反映して計画を最適化する。点検と計画更新を着実に進め、補修の要否や時期を正確に見極め、将来的な財政負担の抑制につなげていく。									

事業名 臨港道路改良事業費			担当 産業港湾部港湾室						
事業概要 臨港道路は、大型車交通が多いことなどから、わだち掘れやひび割れ及び部分的な欠損などの舗装の老朽化により安全性が低下しており、年々の舗装補修費が増大傾向にあることから、社会資本整備総合交付金事業を活用して、劣化が著しい臨港道路の改良を早期に進める。									
		事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算		18,482	千円	0.5	人	2,870	千円	21,352	千円
R7予算		18,500	千円	0.5	人	2,870	千円	21,370	千円
目標		臨港道路の舗装改良及び道路改良を行うことにより、円滑な交通を確保するとともに安全性の向上を図る。また、橋梁施設の塗装塗替えを行うことにより、橋梁施設の延命を図る。							
実績・効果		小樽港の機能維持に不可欠な臨港道路について、計画的な老朽化対策を着実に進めている。本年度は、190m区間の舗装機能を回復させ、大型車両等が安全に通行できる道路環境を維持した。劣化したインフラを放置せず、適切な時期に改修工事を行うことで、将来的な大規模修繕のリスクを回避し、維持更新コストの最小化と施設の延命化を図っており、市民や事業者の安全安心につながっている。							
点検・評価	点検項目	評価				評価の理由等			
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				大型車交通が多い臨港道路の老朽化による安全性低下を防ぎ、円滑な交通を確保するため、事業継続の必要性は極めて高い。			
	妥当性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				計画的な老朽化対策として舗装改良や橋梁の長寿命化を図る手法は適切であり、社会資本整備総合交付金も活用した体制は妥当である。			
	有効性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				190m区間の舗装機能回復等により大型車両等の安全な通行環境を維持しており、小樽港の機能維持や施設の延命に確実な効果を上げている。			
	効率性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				適切な時期に改修工事を行うことで将来的な大規模修繕リスクを回避し、維持更新コストの低減を図っており費用対効果は高い。			
評価の結果を踏まえた今後の方向性						継続			
【今後の方向性の説明】									
引き続き、国の社会資本整備総合交付金等を有効に活用し、本市の財政負担を抑えつつ、安全で円滑な港湾物流を支えるインフラの維持・更新を着実に推進していく。									

令和7年度行政評価《事業評価調書》

事業名		色内ふ頭老朽化対策事業費			担当		産業港湾部港湾室		
事業概要		平成29年度に実施した老朽化調査において、色内ふ頭護岸の鋼管部分に開孔が確認され、所要の安定性が確保されていないことが判明したことから護岸改良工事を実施する。							
		事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算		207,912	千円	0.5	人	2,870	千円	210,782	千円
R7予算		243,400	千円	0.5	人	2,870	千円	246,270	千円
目標		護岸改良工事を実施し、老朽化した護岸の機能回復及び延命化を図る。							
実績・効果		本事業は令和9年度を完了の目標年次としており、今後は北側護岸や色内突堤などの残る改良工事を年次計画に沿って着実に進めていく。老朽化した港湾インフラの機能を早期かつ完全に回復させることで、市民生活に直結する背後施設の安全を長期的に担保する。							
点検・評価	点検項目	評価				評価の理由等			
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				護岸の鋼管部分に開孔が確認され所要の安定性が確保されていないため、早急な護岸改良を行う必要性は極めて高い。			
	妥当性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				令和9年度の完了目標に向け、北側護岸や色内突堤などの改良工事を年次計画に沿って着実に進める手法は妥当である。			
	有効性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				老朽化した港湾インフラの機能を回復させ、市民生活に直結する背後施設の安全を長期的に担保する効果を上げている。			
	効率性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				計画的な年次計画に基づく工事実施により、致命的な破損や突発的な事故を未然に防止し、長期的な安全性の担保を効率的に行っている。			
評価の結果を踏まえた今後の方向性						継続			
【今後の方向性の説明】									
本事業は令和9年度を完了の目標年次としており、今後は北側護岸や色内突堤などの残る改良工事を年次計画に沿って着実に進めていく。老朽化した港湾インフラの機能を早期かつ完全に回復させることで、市民生活に直結する後背施設の安全を長期的に担保する。									

事業名 若竹地区防波堤改良事業費			担当 産業港湾部港湾室					
事業概要		老朽化した防波堤の機能回復のため、防波堤改良工事を実施する。						
	事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算	98,883	千円	0.5	人	2,870	千円	101,753	千円
R7予算	140,700	千円	0.5	人	2,870	千円	143,570	千円
目標		防波堤改良工事により、マリーナの静穏度を確保し、係留船舶及び施設の安全性を確保する。						
実績・効果		老朽化により倒壊し、波の流入リスクが生じていた防波堤について、本年度予定していた改良工事を着実に完了した。防波堤本体の機能を回復させ、波浪の侵入を物理的に防ぐことで、マリーナの静穏度を確保し、船舶および施設の安全性を担保するという確かな効果を上げている。						
点検・評価	点検項目	評価			評価の理由等			
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			老朽化により倒壊した防波堤の機能回復を図り、マリーナの静穏度や係留船舶・施設の安全を確保するため、事業継続の必要性は極めて高い。			
	妥当性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			計画的な防波堤改良工事を実施し、波浪の侵入を物理的に防いで機能を回復させるアプローチは、適切な施設管理手法として妥当である。			
	有効性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			予定していた改良工事を着実に完了させ、マリーナの静穏度を確保するとともに船舶および施設の安全性を担保する高い効果を上げている。			
	効率性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			老朽化による倒壊や波の流入リスクを防止し、将来的な大規模被害や莫大な修繕コストの発生を回避しており費用対効果は高い。			
評価の結果を踏まえた今後の方向性					継続			
【今後の方向性の説明】								
本事業は継続事業であり、令和7年度以降は残る44.2m区間の防波堤改良工事を計画的に実施していく。老朽化に伴う空洞化や崩壊リスクに対し、段階的かつ着実な修繕を進めることで構造物の安定性を回復させ、マリーナの静穏度と港湾施設の安全性を長期的に確保していく。								